

## 「総合郷土研究所所蔵考古遺物の整理・公開」事業の進捗状況について

廣瀬憲雄（事業責任者）

### (1) 台帳作成

2016年12月～2017年11月まで、河原田遺跡・川田原古墳群などの整理を行なった（コンテナ30箱、カード247枚）。台帳はこれまで、ExcelとWordによって作成してきたが、煩雑になってきたため、Accessに切り替えた。

また本書第61輯で、台帳に保管場所を明記すると示したが、建物の耐震性能の関係から永続的な保管場所が確保できていないため、その項目を削除することとした。

### (2) 企画展

本事業の最終年度にあたり、これまでの成果を公表するため、企画展「はじまりは考古学—木造校舎の愛大で—」を実施する。

会期：2018年1月9日～5月18日

会場：愛知大学 大学記念館

概要：当研究所が保管する考古遺物を紹介するとともに、昭和20～40年代に行われた愛知大学の発掘調査の歴史を振り返る。



### (3) 寺西1号墳出土鉄剣・大刀の整理

1965年に文学部史学科によって発掘調査された寺西1号墳から出土した鉄製品のうち、特に鉄剣・大刀の劣化が激しく点数や個々の状態を確認することが難しくなっていたため、元興寺文化財研究所に整理・解明を依頼した。この作業によって確認された遺物は表の通り。

調査対象：寺西1号墳出土 大刀・鉄剣・

鉄矛・石突・小刀・轡・兵庫鎖

調査期間：2017年9月19日～21日

調査者：3名

表 整理作業により確認された遺物とその遺存状況

| 遺物名  | 遺存部   | 全 長    | 最大幅   | 遺物名     | 遺存部             | 全 長    | 最大幅   |
|------|-------|--------|-------|---------|-----------------|--------|-------|
| 大刀1  | ほぼ完形  | 94cm   | 4cm   | 大刀燐属不明1 | 切先のみ遺存          | (16cm) | 3.5cm |
| 大刀2  | 切先を欠く | (53cm) | 4cm   | 大刀燐属不明3 | 刃部～茎部（鐔付、矛1に騎着） | (18cm) | 4cm   |
| 大刀3  | 切先を欠く | (38cm) | 3.5cm | 大刀燐属不明4 | 茎部のみ遺存          | (11cm) | 3.5cm |
| 大刀4  | ほぼ完形  | 73cm   | 4cm   | 大刀燐属不明5 | 切先のみ遺存          | (8cm)  | 3cm   |
| 大刀5  | 基部を欠く | (38cm) | 4cm   | 大刀燐属不明6 | 小片              | -      | -     |
| 大刀6  | ほぼ完形  | 30cm   | 3cm   | 鉄1      | 一部欠け            | 8.5cm  | 7cm   |
| 大刀7  | ほぼ完形  | 49cm   | 4cm   | 鉄2      | 一部欠け            | 6.5cm  | 6.5cm |
| 大刀8  | ほぼ完形  | 74cm   | 5cm   | 鉄3      | 2片のみ            | -      | -     |
| 大刀9  | ほぼ完形  | 56cm   | 7cm   | 鉄4      | 完形              | 6cm    | 6cm   |
| 大刀10 | 切先を欠く | (68cm) | 4cm   | 鉄5      | 完形              | 7.5cm  | 6cm   |

※括弧付きは残存長

※大刀燐属不明2は大刀3の基部として接合したため欠番とした

| 遺物名 | 遺存部            | 全 長     | 最大幅   |
|-----|----------------|---------|-------|
| 小刀1 | 完形             | 27cm    | 5cm   |
| 鉄剣1 | 刃部のみ遺存         | (12cm)  | 3.5cm |
| 矛1  | 完形（大刀燐属不明3に騎着） | 29cm    | 3.5cm |
| 矛2  | 完形             | 29cm    | 4cm   |
| 矛3  | 細片化著しく全容不明     | -       | -     |
| 石突  | 基部のみ遺存         | (7.5cm) | 6cm   |
| 轡1  | 細片化著しい         | -       | -     |
| 轡2  | 細片化著しい         | -       | -     |
| 兵庫鎖 | 細片化著しい         | -       | -     |

### (4) その他

これらとは別に、当事業に関わるものとして、研究員2名が、当研究所の研究費を申請して、遺物の調査をおこなった。次頁よりその報告を掲載する。

## 寺西1号墳出土の鐔のX線透過撮影

荒木亮子（研究員）

2017年7月3日、愛知県埋蔵文化財センターにおいて、寺西1号墳出土の大刀の鐔のX線透過撮影を実施した。撮影した鐔は5点であるが、そのうちの2点に象嵌模様を確認することができたのでここに報告する。なお、この撮影は総合郷土研究所から研究費の交付を受けて実施したものである。

寺西1号墳は、1965年12月に豊橋市教育委員会からの委託を受けて、本学文学部史学科が発掘調査を実施した古墳である。

同墳からは、100点を超える膨大な量の鉄鍬とともに、大刀12点と鉄剣1点が出土した。また装飾須恵器や乳文鏡なども出土しており、一つの古墳から出土した遺物としては、目を見張るものがある。墳丘規模も比較的大きく、中級有力者を埋葬した古墳だと考えられている。

そのため、大刀や剣に象嵌がある可能性が考えられた。しかし、発掘から半世紀以上が経過しており、保存状態も悪かったため、全体を動かすことは不可能であった。せめて、鐔だけでもX線撮影できないかと思い、愛知県埋蔵文化財センターに協力を依頼したところ、快く引き受けていただいた。

X線撮影の結果、2点の鐔に象嵌による文様があることが明らかとなった（写りが良かった方の鐔1点を右に示す）。その文様は連続波頭文様の系譜をひくC字形であった。

残念なことに、現在は厚いサビに覆われてしまい、その文様を肉眼で見えることはできない。寺西1号墳の鉄製品は、発掘から半世紀以上特に保存処理を施されることなく、郷土研に保管されてきた。これらの一部には、劣化が進み、崩壊してしまったものもある。この鐔も放置すればいずれは同じ道をたどるこ

とになる可能性がある。この貴重な資料を恒久的に保存し、有効活用が図られることを期待する。



写真1 象嵌で飾った鐔



写真2 象嵌で飾った鐔のX線写真

## 河原田遺跡出土石器の蛍光X線分析

栴原将人（研究員）

総合郷土研究所が所蔵する“赤みを帯びた石器”の赤色部分の蛍光X線分析を行なったので報告する。この分析は、同研究所から研究費の交付を受けて、2017年7月3日に実施した。

**分析資料** 分析対象とした石器は、豊川市河原田遺跡の出土遺物である。現状は破片であるが、全体形はおそらく楕円形の扁平なもので、中央が皿状にくぼむ。物をすり潰したり、ひいたりするのに用いた石皿と考えられる。磨面には点々と赤い色がにじみ、濃淡はあるものの全面的に赤らんでいる。対照的に、石器の裏面には赤色は全く認められない。このことから、この石器は赤色顔料の精製用具として用いた石皿と考えられた。

**分析方法** そこで、この石器を愛知県埋蔵文化財センターに持ち込み、同センターの堀木真美子調査研究専門員の協力を得て、蛍光X線分析を実施した。まず、石器表面からセロハンテープを用いて赤色物質を採取し、分

析試料とした。測定点は2箇所設定した。測定機器は株式会社堀場製作所製XGT-5000を用い、100  $\mu\text{m}$ の強力で超微細なX線ビームを赤色物質に照射し、元素分析を行なった。X線管電圧は30kV、測定時間は500秒、雰囲気は大気である。

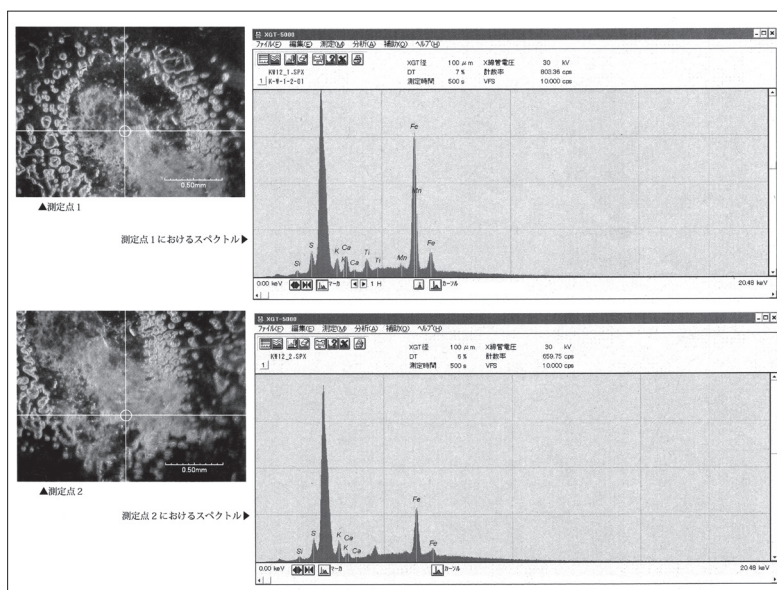
**分析結果** 測定結果をグラフに示す。検出された元素は、Si(ケイ素)、S(硫黄)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Fe(鉄)である。石器磨面の赤色物質の採取を試みるも、十分量の試料を得ることはできなかった。

このことから、石器ににじむ赤色は、赤色顔料が付着したものではなく、石を構成している鉱物に由来するものであることが判明した。

単に赤ばんだ石器だった、という結末ではあったが、理化学的分析の助けを借りることによって、肉眼観察では判断しえない結果を得ることができた。



分析対象の石器



# 「郷土研所蔵の古文書の目録公開と研究」事業の進捗状況について

山田邦明（事業責任者）

愛知大学総合郷土研究所（郷土研）には、長年にわたって収集されてきた歴史的古文書が多数所蔵されている。仮目録をもとにして古文書の点数を数えると、合計で5万点を超える。こうした古文書については仮目録が存在するが、これを点検して、形式や内容の整備された目録を作成し、一般に公開するという事業を開始した。今回の事業は2016年度から2018年度までの3年間のもので、かつての三河国渥美郡に属する地域（現在の田原市と、豊橋市の朝倉川以南）に関係する分について目録データベースを作成して冊子体の目録を刊行し、データベースをホームページ上で公開することを目的としている。

冊子目録は2冊で、1冊目には約3,800点、2冊目には約4,500点を収録する。2016年度には1冊目にかかわる目録データベースを作成したが、2017年度（本年度）はこのデータベースを点検のうえ完成させて、1冊目の冊子目録を刊行した。また2冊目にかかわる古文書を点検し、目録データベースを作成した。さらにデータベースをホームページ上で公開するためのシステムを構築し、冊子目録の1冊目に相当するデータベースの公開を実現させた。1冊目の目録に収録した文書群（かつての所蔵者ごとの文書のまとまり）と、2冊目の目録に収録予定の文書群は以下の表の通りである。また昨年度同様、目録の体裁や記載内容などについて議論する会合を、ほぼ月に一度の頻度で開いた。目録作成作業は山下智也が担当し、会合には神谷智・内藤路子・荒木亮子・山下智也と山田が参加している。

## 1冊目の目録に収録した文書群

三河国渥美郡日出村斎藤家文書  
三河国渥美郡堀切村文書  
愛知県渥美郡堀切尋常高等小学校文書  
愛知県渥美郡伊良湖岬村常光寺贈位階昇叙申請書  
三河国渥美郡保美村文書  
三河国渥美郡畠村文書  
三河国渥美郡畠村松浦家文書  
大日本国防婦人会福江町分会資料  
三河国山田村泉福寺文書  
三河国渥美郡高木村文書  
三河国渥美郡江比間村石川家文書  
愛知県渥美郡田原町・野田村等関係文書(1)(2)(3)  
愛知県渥美郡田原町柴田家文書  
豊橋電気株式会社田原営業所文書(1)(2)  
愛知県渥美郡童浦村役場文書  
島本彦次郎氏旧蔵文書  
三河国渥美郡高塚村小野田家文書  
愛知県渥美郡高豊村事務報告書及財産表  
三河国渥美郡小島村文書(1)(2)  
三河国渥美郡大岩村山本家文書(1)(2)(3)  
愛知県渥美郡大崎村向山組文書  
三河国渥美郡向草間村文書  
愛知県渥美郡高師村神社史料  
三河国渥美郡橋良村田村家文書  
三河国渥美郡小浜村芳賀家文書  
三河国渥美郡牟呂村白井家文書  
愛知県豊橋市牟呂町杉浦家文書  
三河国渥美郡青竹新田榊原家文書  
愛知県渥美郡牟呂・吉田方軍人家族台帳  
愛知県豊橋市内神社総代異動届

## 2冊目の目録に収録予定の文書群

三河国渥美郡吉田福岡家文書  
三河国渥美郡吉田質仲間文書  
愛知県渥美郡船町鷗野家文書  
豊橋聯隊区関係文書  
豊橋市戦時文書  
渥美線電車時刻表  
河合家関係文書  
近代渥美郡関係文書  
渥美郡関係文書  
羽田野敬雄手蹟集  
大河内家系譜略記  
愛知県豊橋市瓦町西町町内会史料  
豊橋聯隊区将校団資料